

報徳園だより

〒514-0065 三重県津市河辺町 1317-1
TEL:059-228-1951 FAX:059-228-1952 <http://www.houtokuen.jp/>

題字 前理事長 常磐井猷磨

理事長就任と人間の尊厳

理事長・園長 千草篤磨

この度、常磐井猷磨・前理事長の後任として社会福祉法人高田真善会の理事長に就任いたしました。平成4年から31年の長きに亘り、報徳園の母体である社会福祉法人高田真善会をリードしてこられた前理事長の功績はあまりにも偉大であり、私がこれから何ほどのことができるのかを考えると、甚だ不安と心配だらけのスタートです。

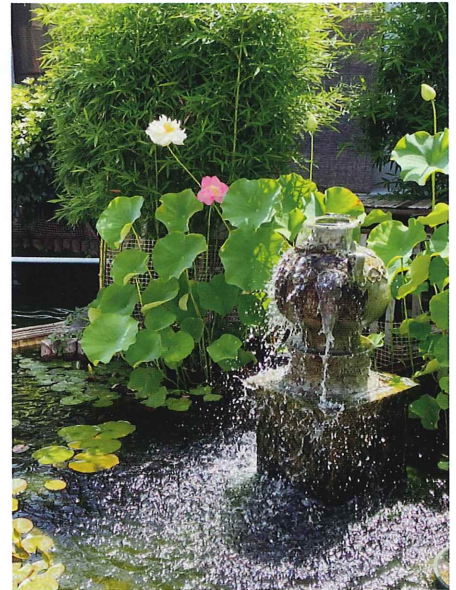
今、社会福祉の現場は大変厳しい状況が続いています。介護保険法や障害者総合支援法によって、社会福祉が「サービス」になってしまいました。社会福祉の世界には社会福祉法人だけでなく、NPOや営利目的の株式会社も参入してきており、玉石混交の状況です。国は、様々な事業



高田本山の蓮の花

体が競い合っ
て社会福祉
の向上を図
ることが重
要だと言っ
ています。
しかし、従
来の社会福
祉事業は競
い合うので
はなく、互
いに協力し
合っ
て質の向上
を図ってき
ました。利
益を上げて
儲かって

いれば良い施設だと言えるのでしょうか。赤字施設はだめな施設なのでしょうか。利益を第一に考えるのではなく、目の前で困っている人のために何ができるかを考えることこそが社会福祉の本領です。



報徳園の蓮の花

その際のキーワードは「尊厳」です。お金持ちだから、地位があるから、健康だから尊いのではなく、人間として存在することが尊いのです。それが人間の尊厳です。40年以上も前のものになりますが、前理事長の著書（「凡想凡日」筑摩書房1980）から引用します。「寝たきり老人にも人権があるからと言うよりは、『寝たきり老人も人間として尊厳であるから』と言う方が親しみやすいし、福祉の精神に近いと思うがどうであろうか。仏教徒はこの尊厳思想をもっと推し進め、展開すべきではあるまいか」と提起され、「それにはまず自己の尊厳性を自覚することだ」と述べられています。理事長就任にあたり、引き続き前理事長のご指導を仰ぎながら、この尊厳性を追究していく所存です。

入所者のみなさんの生活は、 心身の状況に応じて4つのゾーンに分かれています。

1丁目

3月3日のひな祭りでは、各丁目で飾ってお雛様を前に歌を歌ったりしているところに、1丁目職員がお内裏様とお雛様の衣装を着用して登場し、利用者さんと少しはにかむ表情で写真を撮りました。

今年の衣装は、貰い物の着物や職員が家から持ってきた布を、裁縫の得意な職員がリアルにリメイクし、昨年とは違った雰囲気衣装で春の訪れを利用者さんと職員で迎えました。また、現在進行形で袴も製作中であり、来年のひな祭りも違った衣装での記念撮影になりそうで楽しみです。



2丁目

2丁目の中庭では季節毎に色々な花や野菜を作っており、現在はトマト、キュウリ、ピーマン等の夏野菜を育てています。利用者の皆さんは日々成長する野菜を眺めながら「綺麗に色付いてきた。」「美味しそうやな。あ。」と収穫する日を楽しみにされておりました。

利用者の皆さんに手伝ってもらい、いざ待ちに待った収穫。もぎたてのプチトマトを「美味しい！」と何個も口に運ぶ方もみえ、大変喜ばれていました。

夏バテに効果的な夏野菜。まだまだ厳しい暑さが続きますが、夏野菜の力も分けてもらいながら、楽しく乗り切っていきたいものです。



3丁目

3丁目では、日々利用者さんと職員が共に季節や行事を楽しく感じてもらえる様に歌や体操・レクリエーションを行っています。丁目内の飾り付けの多くも利用者さんと共に作り、季節の変化が分かる彩り豊かな丁目風景が特徴です。中でも、職員のピアノによる伴奏がより明るい歌と体操の時間を提供してくれています。今後も1つ1つの時間を大切に、利用者さんと職員が共に笑顔の発見や健康の維持に努めて、風邪や暑さに負けない事を目標にしていきたいと思えます。



4丁目

コロナが徐々に落ち着き、3年ぶりに園庭でヨモギ餅つきを行いました。お天気にも恵まれ、久々の外での行事に利用者の方々の楽しそうな表情を見ることができ、私たち職員も温かい気持ちになりました。職員と利用者の方々の協力してついたヨモギ餅は昼食の一品として提供させてもらい、「さっきみんなでついたお餅やなぁ」といつもより会話も弾みながらおいしく召し上がっていただけたようです。少しずつではありますが、コロナの状況をみながら今後も皆様に楽しんでもらえるようなレクリエーションや行事を行っていきたくて考えています。



デイサービスセンター報徳園（認知症対応型通所介護）

デイサービスでの最近のレクリエーションを紹介したいと思います。

6月にコマ作りに挑戦しました。コマは割りばしと広告で作ります。短く切った割りばしに、細く丸めた広告をくるくる巻き付けてテープで貼って完成です。作り方はとても簡単ですが、広告を巻き付ける時、厚みのある部分を巻くときにゆるんでしまったり、意外に手先に力が必要で、やってみると少し苦戦してみえました。



作ったコマを回してみるとよく回り、最初は回せなかった利用者の方も、しばらくすると上手に回せるようになり、みんなで回して楽しんでいます。

今後も昔の遊びをレクリエーションに取り入れていきたいなと思っています。

在宅介護支援センター

介護支援専門員の力量が、社会的に問われています。私たちの業務にゴールはなく、資質の向上を図る為には、自らが研鑽を積むしかありません。スキルアップを目的に、地域包括支援センターが主催する事例検討会に定期的に参加させて頂いています。

今回は、在宅介護支援センター報徳園が事例報告を行いました。事例説明の中で、自らの支援場面を反芻し、出席された多職種の方からの助言も頂く中で、堂々巡りになっていた支援に新たな気づきが生まれました。地域包括支援センターと連携することで、迅速な対応も可能になります。質の向上を怠らず、今後も自立支援に資するケアマネジメントを目指していきたくてと思っています。





入所者インタビュー

長谷川 品枝さん (101才)

報徳園での暮らしはいかがですか？

私には最高。ここはみんなと平等に話ができるし、仲良くしています。みんなと何でもない話をするのが一番楽しいです。食事は私の口にはピッタリ、美味しいですよ。部屋は一人部屋で気楽です。部屋ではテレビを見たりして過ごしていますよ。家族もみんな大事にしてくれています。孫やひ孫を見ているのも楽しみです。

長生きの秘訣はありますか？

特別なことは何もなく、普通の生活をする、好き嫌いを言わずなんでも食べること。あと10年は生きたいけど、無理やわ。こればかりは決められやんもんね。



家族インタビュー

田村 順子 さん
(利用者 橋本 あさる さん 97才)

報徳園を利用するきっかけは、将来のためにと母の特養の申し込みに来た事です。係の人が親切に説明をしてくれて、中の案内もしてくれました。その後もしばらくは自宅での生活を続けていましたが、通っていたデイサービスの浴槽に入ることが難しくなり困っていた時に入所申し込みに行った報徳園を思い出し、ケアマネに相談し、デイサービスの利用から始めました。母は一人暮らしなので、毎朝母の家に行っていました。こけている事が増えてきて、心配になり今はショートステイを利用しています。

母は精神的にも悪く、食事の量も少なく、私も帯状疱疹になってしまった。でもショートステイを利用してから食事の量も増え、足の浮腫みも減り、医師から健康になったと言われました。報徳園での生活を聞くと、色々な話をしてくれ、会話ができる事がありがたいです。ショートステイが刺激になり、ハリが出ている感じがします。97才の母ですが、これからも穏やかに笑顔で過ごしてもらえると良いなと思っています。



地域のみなさんへのインタビュー

河辺町自治会長 (本法人・評議員選任解任委員) 田村 吉生 さん

昨年度の河辺町自治会の活動はコロナウイルスの感染拡大の影響で、毎年恒例の行事がほとんどできませんでした。報徳園を会場として行われる「河辺町盆踊り大会」も中止となりました。来年は新たな形でできればと思います。

河辺町は高齢者世帯の割合が徐々に増えてきており、隣同士でも顔を合わせる事が減ってきました。地元の報徳園のデイサービスで馴染みの仲間が集うことが、今後ますます期待されてくると思います。

報徳園では私の父もお世話になっています。自分が親の介護を体験し、家庭で家族が世話をすることの大変さが身に染みしています。報徳園の職員の人たちは、若い人も多く、いつも笑顔で対応してくれて、本当によくやっていただいていると感謝しています。



医務室より



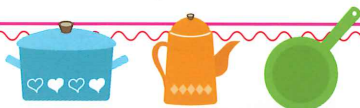
報徳園での入所者の方は介護度4~5の方が多く様々な年齢の方が入所されています。毎日体温測定を行い、発熱時や様子の変化がみられた場合には全身状態の観察をし日々の健康管理をしています。



園は生活の場であり、看取り介護を大切にしています。看取り介護では穏やかな最期を迎えられるように、希望を叶え安心感を与えるケアを続ける事を目標とし、研修を行い、スタッフが一丸となってケアをしています。看取りであれば24時間いつでも面会が可能で、家族さんと共に最期の時を過ごすことができるようにしています。

“いつもとちがう”等の様子の変化に注意して利用者さんの日々の健康管理を行い、異常の早期発見・対応に努めていきます。

給食業務より



この日の夕食のメインは「鮭のバター醤油焼き」。醤油で下味をつけた鮭にバターを乗せて、スチームコンベクションオーブンで焼きます。こんがり焼けて美味しそうに出来上がりました。その後、手作業で皮、骨を取り除き、刻んだり、すりつぶしたりして、利用者の皆さんに提供させていただきます。

主食は米飯、軟飯、粥、ミキサー粥の4形態、副食は普通、刻み、超刻み、極超刻み、ミキサーの5形態、日々、毎食、食材や調理法に応じてトロミ剤を入れたり、工夫して食べやすくしています。



相談員より

今回このコーナーの担当は相談員です。私たち相談員は3人で特養とショートステイの利用申し込みから、調査、契約、ケアプランの作成などを行っています。利用者さんの日々の様子の把握、家族さんやケアマネジャーの方々との電話、対面でのやりとりなども大切な仕事です。

報徳園ご利用にあたっての最初の窓口であるため、ご利用者、ご家族の皆さんの気持ちに寄り添えるよう、「相談して良かった」と思ってもらえるよう、今後も丁寧な対応を心掛けていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



職員研修会

高齢者虐待防止研修

講師 松枝 桂子 先生

「高齢者虐待防止法」では、高齢者虐待を「身体的虐待」、「介護・世話の放棄・放任（ネグレクト）」、「心理的虐待」、「性的虐待」、「経済的虐待」の5つに分類しています。

日々の業務の中、なにげない一言が虐待につながる場合があります。「利用者はお客様」であり「感謝」の気持ちを常にもっていただかなければならず、その姿勢が言葉や行動に現れると思います。しかし、どれだけ丁寧な言葉を使っているとしても、心がこもっていただければ、利用者の方に不快な思いをさせてしまう可能性があります。日頃から基本的な接遇マナーについてもきちんと身に付け、利用者の方への接し方に注意することが大切だと思いました。虐待とは職員一人の責任ではなく、チーム全体、施設全体、事業所全体、で協力して業務にあたることで未然に防げると思いました。

私は給食課で調理の担当をしています。食べることは、人生の楽しみとも言えますし、それは高齢になっても失ってほしくない。日々そう思いながらお料理を提供しています。今回の研修で印象に残ったのが、毎回食事を残すから、食事量を1/2にすることは全量の権利を無視している、という内容でした。

利用者の中には少食の方もみえます。残すのがもったいないと思いつつも意思表示が出来ない利用者の方の気持ちを考えると、難しい課題だと思いました。今回の研修を受けて利用者の方一人ひとりに満足していただける食事内容を見直す良いきっかけになったと思います。

これからも引き続き、旬の食材を取り入れ報徳園の特徴である手作り感のある、お料理を利用者の方に提供していきたいと思つています。

今後も高齢者施設で従事する以上、各職種がプロ意識を持っていただける様に、定期的に研修を実施していきたいと思つています。



新任職員紹介



植田 朱音
(介護職員)



菊野 千穂
(介護職員)



別所 孝政
(介護職員)



堀 陽太
(介護職員)



鈴木 正明
(介助員)



手を合わすころ

鈴鹿市 浄国寺住職 藤浦弘導

皆さんは日頃から、神社仏閣や神棚仏壇又はお墓の前で、神様仏様ご先祖様に手を合わせていると思います。しかしこれ以外にもう一か所、手を合わす場所があります。どこだと思いませんか。それは食事をする時です。食前には手を合わせて「いただきます」、食後は「ごちそうさまでした」と感謝の言葉を述べているでしょう。

世の中には、見える世界と見えない世界があります。昔の話を少ししましょう。昔は食事中に子供がご飯を足元に落とすと、「もったいない、拾って食べなさい」と言われました。今の親は、子供が拾って食べようとする、「汚い、捨てなさい」と言います。親は子供が下に落ちたご飯を拾って食べて、お腹を壊すと大変だと思ふ気持ちから出た言葉です。しかし昔は違いました。なぜですか、昔は今と比べれば貧しかったからですか。今も昔もご飯粒一つはわずかな量です。それは例え一粒のお米であっても私の口に入るまでに、泥にまみれて汗水たらしお米を作ってくださったお百姓さんを始め、食事をいただくまでにどれほど多くの人のご苦労があったかを思い、稲に米が実るといふことは天地自然の恵みであり、米粒一つにも貴い命が宿っていることを考える。これは目に見えない世界です。この見えない世界全てに感謝の気持ちを込めて、「もったいない」という言葉が出てきたのです。

昔は服が綻びると母親は針と糸を使って服を繕いました。昔は農家か自営業がほとんどで、子供は親の働く姿を見て育ちました。親が苦労して自分を育ててくれたことを見て育った子供は、大きくなって親を大切にしようと思ふます。今は服が破れるとショッピングセンターへ買いに行きます。子供はお金を払って服を買っている所を見て育ち、お金の大切さを知ります。そのお金は親が働いて稼いできたものです。でも今の親はサラリーマンです。子供は親が会社へ行っている姿を知りません。大きくなって子どもはお金は大切にしますが、親は大切にしません。あたりまえです。これが見える世界です。

手を合わすころは、報恩感謝のお念仏を申すことです。「ありがたい」「もったいない」「おかげさまで」と手を合わすことです。つまらぬ自我と妄執に気がついて得手勝手を慎み、相手を思いやり、いつもにこにこ感謝の生活を送れば、世の中きっと明るくなるでしょう。

一働きやすい介護職場取り組み宣言一

令和5年4月より、本法人が「みえ働きやすい介護職場取組宣言事業所」に認定されました。これは、「介護職員の確保、定着および介護サービスの質の向上に繋げるため、職場環境の改善に積極的に取り組むことを宣言する事業所を三重県が証明し、その取組内容を公表する」ものです。取り組み項目は「人材育成とキャリアアップ支援の取組」、「職員の処遇改善と職場環境の改善のための取組」、「サービスの質の向上と職場のイメージアップに向けた取組」の3つです。一回の取り組み期間は2年間ですが、その後も継続して取り組んで行く予定です。



ギャラリー



「白い花の咲く頃」(スイス) 加藤浩子さん

集会室(仏間)前の廊下の壁は絵画や写真のギャラリーとして、入所者や来園者の和みと癒しの空間となっています。月単位で10作品ほどを入れ替え展示しています。今回は加藤浩子さんが海外へ出かけて撮影した写真を紹介します。



「ノーンハーン湖の蓮」(タイ) 加藤浩子さん

令和4年度 決算報告

事業活動計算書(要旨)

(自)令和4年4月1日 (至)令和5年3月31日

法人名: 社会福祉法人高田真善会 (単位: 円)	
サービス活動増減の部	当年度末
収益	
介護保険事業収益	614,645,068
経常経費省附金収益	2,060,501
サービス活動収益計(1)	616,705,569
費用	
人件費	488,370,697
事業費	116,509,491
事務費	33,443,630
利用者負担軽減額	0
減価償却費	28,508,853
国庫補助金等特別積立金取崩額	6,455,261
サービス活動費用計(2)	660,368,329
サービス活動増減差額(3=1-2)	△ 43,663,351
サービス活動外増減の部	
収益	
受取利息配当金収益	3,294
その他のサービス活動外収益	9,119,278
サービス活動外収益計(4)	9,122,512
費用	
その他のサービス活動外費用	4,834,400
サービス活動外費用計(5)	4,834,400
サービス活動外増減差額(6=4-5)	4,288,112
経常増減差額(7=3+6)	△ 39,375,239
特別増減の部	
収益	
施設整備等省附金収益	0
特別収益計(8)	0
費用	
基本金組入額	0
固定資産売却損・処分損	6
特別費用計(9)	6
特別増減差額(10=8-9)	△ 6
当期活動増減差額(11=7+10)	△ 39,375,245

貸借対照表(要旨)

令和5年3月31日現在

法人名: 社会福祉法人高田真善会		当年度末	
資産の部		負債の部	
勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
流動資産	275,851,022	流動負債	43,842,718
現金預金	174,438,660	事業未払金	18,649,206
事業未収金	100,770,750	職員預り金	2,190,604
前払金	100,000	賞与引当金	23,002,908
前払費用	541,612		
固定資産	660,598,137	固定負債	53,605,040
基本財産	386,351,700	退職給付引当金	53,605,040
土地	196,588,016	その他の固定負債	0
建物	189,763,684	負債の部合計	97,447,758
その他の固定資産	174,246,437	純資産の部	
土地	74,745,000	基本金	680,558,876
建物	8,698,873	国庫補助金等特別積立金	54,489,363
構築物	6,483,878	次期繰越活動増減差額	3,953,162
車両運搬具	2,310,652	(うち当期活動増減差額)	△ 39,375,245
器具及び備品	26,778,168		
退職給付引当資産	53,605,040	純資産の部合計	739,001,401
長期前払費用	1,624,836	負債及び純資産の部合計	836,449,159
資産の部合計	836,449,159		

※決算書類等は膨大なため、報徳園事務所に閲覧できます。担当職員までお申し出ください。また、報徳園ホームページにて公開し

祇園会・花火大会

今年も7月14日に祇園会を行うことができました。昼間は仏間で西瓜割りや踊りを楽しみ、夜は好天(曇り空)に恵まれて、花火大会で盛り上がりました。昨年に引き続いて、こどもの杜ゆたか園の子どもたちも保育園の園庭から同じ花火を見上げて、歓声を上げていました。500メートルの近距離にあるのですが、普段は全く交流はありません。年に一度夜空の花火を通して保育園児と報徳園の高齢者が繋がります。花火が打ち上がる度に報徳園にまで子どもたちの声が聞こえてきました。



編集後記

報徳園だよりは今回で8回目の発行となりました。全職種で構成されている広報委員会が主となり、内容に少しずつ変化を加えながら作り上げています。それぞれの立場から利用者の方々への思いが詰まった報徳園だよりは、利用者の方々の日々の様子、私たちの思い、上手く伝わりましたでしょうか。最後までご覧いただきありがとうございました。